



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「お陰さまカルマ論 ①」

わが愚妻スナヤナ妃が言い放った。

「明日カウンセリングを受けるので、晩御飯はなし！」

(また晩飯抜きか・・・沈黙)

わが輩もときに無連絡で晩御飯をキャンセルすることがあるので文句は言えない。それにしてもカウンセリングとはこれ如何に。わが輩の存在自体がストレスなのか。亭主元気で留守が良い、と世人は言うが、わが輩は「亭主元気で“印度”が良い」なので迷惑はかけていないはずだ。

愚妻にそれとなく聞いてみると、どうやら愚妻のボランティア活動のストレスが酷いらしい。眠れない夜もあるらしい。血圧が180まで急上昇した。

(家庭内別居なのでわが輩はぐっすり眠れる)

問題は活動そのものよりも人間関係にあるらしい。

「来年はもう辞める」

と息巻いている。

「大変だね・・・(無言)」

わが輩は慰めたものの、本心からではない。それを生き甲斐にしているのだから辞めないでほしい。今さら辞められても困る。なぜなら、愚娘シーター姫に彼氏ができた。ストレス解消のために姫を連れまわしていたが、姫は彼氏の方に目がむいてしまった。

読者諸氏よ。わが輩はデジャブ(既視感)のように思い出す。妃の愛犬メルが亡くなった時、彼女の視線はわが輩に向けられた。つまりわが輩はメルの代用品になったのである。

(まっぴらご免だ)

「それならボランティアを辞めたら」

などと言おうものなら、すぐ反論がくる。ボランティアではなく「仕事」だと言い張る。パートのレジ打ちよりも崇高な仕事だと思っている。わが輩からみれば、パートには適正な対価が支払われる。残業すれば残業費が支払われる。崇高だと言わないが、適正な仕事だと思える。夜遅くまでオフィス(自宅)で“仕事”をしても、お役所は対価を支払わない。

(それってボランティアじゃないの?)

わが輩の仕事はボランティア的要素があるものの、わが輩が辞めれば、一番困るのは愚妻である。同じボランティア的要素でも、妃のそれは社会的貢献度が高い。多くの子どもを教

導している。わが輩は誰も教導したことがないし、そんな力もない。わが輩のは単なる生活の糧である。しかしながら妃の年賀状は多いにもかかわらず、何か薄い関係のように思えてならない。

(わが妃よ。反論することなかれ)

一つ違うことを発見した。

わが輩は生活の糧にもかかわらずご縁に恵まれ恩恵を受けることが多い。去年は4回渡印した。親友の小学校同級生とブッダ生誕の聖地に詣でることができた。人間国宝のインド公演旅行は大成功であった。茶の宗匠も同行した。人間国宝とは35年来のお茶飲み友だちである。ある講師を日本(比叡山)に招聘した際、奈良京都をつきっきりで案内した。返礼のためガンジス河上流に伺うと厚いオモテナシを受けた。講師はわがインド哲学の師でもある。極め付きはインドの大学での講演である。数学の名誉教授がもたらしたご縁のお蔭である。演題は「インドと日本におけるホスピタリティ」である。母のお遍路姿の写真を用いてホスピタリティ(ご接待)を解説した。母への報恩になった。ずっと知識よりも経験(行為)を優先してきた。それが有難いご縁を生んだ。

「個人あって経験あるにあらず、経験あって個人あるのである」.

(哲学者西田幾多郎)

“経験”があつてわが輩(個人)が成り立つ。ただ身体があるだけでは、動く物にすぎない。みなさまとの有難いご縁(関係性)で“経験”が成り立つ。

考えることなく、猪突猛進で生きてきてよかった。

さて、読者諸氏よ。わが輩と妃の事象をインド的に解釈すればどうなるだろうか。昨年約束したようにカルマ(業)の理論を用いて解きほぐしてみたい。

カルマには次の三つがある。

1. サンチタ・カルマ(過去世)
2. プラーラブダ・カルマ(現世)
3. アーガミ・カルマ(来世)

ところで読者諸氏よ。「カルマ」といえばテレビによく出演する金髪男や、いわんや祈祷師星占い屋の話ではない。彼らは「カルマ」という言語を、「前世の因縁話」にすり替えて人心を惑わす道具に使っている。それは別として、このカルマ理論が完全なのか不完全なのか次号で考えてみたい。

読者諸氏よ。今年は惑わされることなく、健やかに過ごそう。老師方よ。とりあえずはオレオレ詐欺に注意しよう。